

グランプリ北海道

入賞プラン決定

INCUBERSE(※) 個人開発アプリ共有プラットフォーム



「INCUBERSE」は、学生が考案した事業アイデアや開発したアプリを共有するプラットフォームです。創業支援プログラムとつなぐことで、企業や起業支援プログラムとつなぐことができます。

代表の山下さん
高めていく。

企業や起業支援プログラムとつなぐ

「INCUBERSE」の強みは、誰もが気軽に事業アイデアを投稿できるシンプルな仕組みと、専門的なアドバイスやフィードバックが受けられるオープンな環境を提供できることです。人工知能(AI)を活用して学生と企業を効率的にマッチングする機能やSNS感覚で交流できる機能によって、学生の起業を強力にサポートする。学生が一步を踏み出すきっかけを創出し、「いい経験」で終わらない未来を共に築いていく。「INCUBERSE」を通じて、学生の可能性を解き放ち、社会に新たな価値を届けていきます。



代表の倉橋さん
オーダーメイド

北海道を養殖先進地域へ 養殖システムの導入支援サービス

私が発表したプランでは旧競り場、漁港付近の空き施設、使用されていない加工場などの活用を支援し、初期投資を抑えながら養殖事業を展開する方法を提案している。特に、自社工場や物流網と組み合わせることで、海面養殖と同等のコストと鮮度を実現できる点を重視している。また、閉鎖環境での生産により、顧客ニーズに応じたオーダーメイド

オーダーメイド生産が可能

生産が可能となり、マーケットイン型の養殖生産を実現できることを強みとしている。事業者が直面する主な課題は以下の三つである。①適切な設備投資と立地選定の安定的な種苗の確保②養殖技術を持つ人材の確保・育成。私のプランではこれらの課題に対し、独自のシミュレーション技術とIoT(MONのインターネット)・AI(人工知能)を活用した管理システムの導入支援、地域との連携強化のコーディネートなどを通じて、包括的なソリューションを提供していく。

最優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

最優秀賞に松下さんら

CVG全国大会に出場

道内の学生によるビジネスプランコンテスト「第20回CVG北海道」には、前回を上回る13の大学・大学院などから35件のエントリーがあり、うち12校の26プランが有効と認められた。その中から1次審査をくぐり抜けたら最終審査に進出。各組の代表者が資料を会場スクリーンに投影しながら熱弁を振るった。

7分間のプレゼンテーションに続き、審査員との質疑応答では制限時間の8分に収まらない活発な議論が交わされた。

その後の採点や審議の結果、公立ほこだて未来大学・西陽也、佐藤 紘基、松下文太、倉橋 康平、梁 冠宇、佐々木 勇人、代表として出場する。

優秀賞は北海道大学大学院・倉橋康平さんが代表者として、北海道を養殖先進地域へ、養殖システムの導入支援サービスを発表した。

表彰式後の祝賀会は、食卓の合間に学生と各委員、企業関係者が、ざっくばらんに会話を交わし、記念写真を撮影するなど和気あいあいとした雰囲気。後半には司会者からのご指名を受け、全員が感想や意見を述べた。お互いの距離を縮めていた。

最優秀賞に松下さんら

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

優秀賞

最優秀賞に松下さんら

CVG全国大会に出場

「第20回キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)北海道」実行委員会と日刊工業新聞社は2024年11月26日、札幌市中央区の札幌ガーデンパレスで最終審査会を開催した。厳正な審査の結果、最優秀賞の公立ほこだて未来大学・同大学院のグループをはじめ、審査した全4組を入賞プランに決定。同日、表彰式と祝賀会も行い、受賞学生と実行委員、審査員、協賛・後援企業団体の関係者が交流を深めた。

表彰式後の祝賀会は、食卓の合間に学生と各委員、企業関係者が、ざっくばらんに会話を交わし、記念写真を撮影するなど和気あいあいとした雰囲気。後半には司会者からのご指名を受け、全員が感想や意見を述べた。お互いの距離を縮めていた。



チャレンジ精神あふれるアイデアに感銘

「第20回キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)北海道」実行委員会と日刊工業新聞社は2024年11月26日、札幌市中央区の札幌ガーデンパレスで最終審査会を開催した。厳正な審査の結果、最優秀賞の公立ほこだて未来大学・同大学院のグループをはじめ、審査した全4組を入賞プランに決定。同日、表彰式と祝賀会も行い、受賞学生と実行委員、審査員、協賛・後援企業団体の関係者が交流を深めた。

表彰式後の祝賀会は、食卓の合間に学生と各委員、企業関係者が、ざっくばらんに会話を交わし、記念写真を撮影するなど和気あいあいとした雰囲気。後半には司会者からのご指名を受け、全員が感想や意見を述べた。お互いの距離を縮めていた。

ごあいさつ

CVG北海道実行委員会委員長 藤井裕

敬意を表します。

この記念すべき第20回大会において入賞された皆さま、誠におめでとうございます。

CVG北海道は、明日の北海道を担う若者たちの起業家精神を養い、創造力やチャレンジ精神に富み人材問題を発見し解決していく力を持った人材の育成を目的に毎年開催しています。今回も道内の大学・大学院、高等専門学校などから創造性豊かなビジネスプランがそろいました。

その中で最優秀賞の栄誉に輝いたのは、公立ほこだて未来大学の松下さんらによるアイデアで、学生が開発した努力の結晶であるアプリを、コンテストなどのイベントでも果たしているなど完成度が高く、1次審査でも注目されていたが、僅差で次点の評価となった。また、奨励賞に室蘭工業大学大学院・葛西芳枝さんらの「脱空き家」後世の「空き家ストック」利活用、努力賞に小樽商科大学・池田莉々香さんらの「RunAd(ランアド)」および同大学院・先名修平さんの「社会人教育特化型マーケティングサービス」が選ばれた。

表彰式後の祝賀会は、食卓の合間に学生と各委員、企業関係者が、ざっくばらんに会話を交わし、記念写真を撮影するなど和気あいあいとした雰囲気。後半には司会者からのご指名を受け、全員が感想や意見を述べた。お互いの距離を縮めていた。



表彰式後、全入賞者と実行委員、審査委員、協賛・後援企業団体関係者が記念写真に収まった

第20回CVG北海道実行委員会 (敬称略)	
〈委員長〉	岩田 圭剛 (北海道商工会議所連合会会頭)
藤井 裕 (北海道経済連合会会長)	吉住 淳男 (北海道商工会連合会会長)
〈委員〉	福島 知之 (北海道科学技術総合振興センター専務理事)
鈴木 洋一郎 (北海道経済産業局長)	井水 治博 (日刊工業新聞社社長)
鈴木 直道 (北海道知事)	

カーボンニュートラルを目指してエア・ウォーターが進める取り組みのひとつ、「液化バイオメタン」。

その原料はなんと、北海道で飼育されている牛たちのふん尿です。臭気や水質汚染など、環境課題の一因だったふん尿を集めて製造した液化バイオメタンは、カーボンニュートラルな再生可能エネルギーとして、地産地消のロケット燃料などへの活用も期待されています。

わたしたちエア・ウォーターは「地球の恵みを、社会の望みに。」というパーパスの実現のために、さまざまな社会課題の解決に挑戦し続けます。

第20回 キャンパスベンチャー

審査批評

CVG北海道審査委員会委員長

鈴木馨



キャンパスベンチャーとして質の高い内容だと感じました。審査には記載されていたけれど最終審査の結果は各賞間では比較的低い順位となっていました。そのような中での受賞の授賞を分けたのは、審査員がもつと詳しく知りたいと感じた点にずれがあったケースも見られました。そのあたりは各審査員との質疑が参考になると思います。この後は役立てて頂ければ幸いです。

ユニークな構想 グローバル事業展開も期待

最優秀賞を受賞した「個人開発アプリ共有プラットフォーム」では、アプリリリースなど高評価されたものの、その後に活用されなかったケースが多いという課題も指摘されたが、必ずしも北海道限定の課題ではなく全国に共通している点が多いので、初めから全国展開への視点も考慮しておくこと、より良い内容になることを期待されるものが多くありました。以上、今後のさら



代表の池田さん
小樽商科大学 池田莉々香
北海道大学大学院 野口真司

運動習慣持つ個人を広告媒体に
我々のビジネスプランは、個人が行う運動に対するインセンティブの付与を通じ、人々の健康寿命の延伸に寄与することを目指しています。日本が今後高齢化による労働人口減少問題の解決に貢献できることを考えています。同時に、このプランは個人を広告媒体とする新しいマーケティングの可能性を開拓するつもりです。



代表の池田さん
小樽商科大学 池田莉々香
北海道大学大学院 野口真司

社会全体の学習文化高める
当プランの目的は、個人が学習する中で、適切な学習リソースを探し出すことや、非効率性を減らし、学習効率を高めることにある。教育コンテンツの提供と、専門性を有する大学教員など企業のおよび個人をつなげることで、学習コンテンツを検索、選択、受講できるものとして提供される。ターゲット顧客は、スキルアップを目指す個人、中小企業の社員教育担当者、そして人的資本経営を行う。

RunAd(ランアド)

努力賞

脱空き家！後世の「空き家ストック」利活用



代表の葛西さん
室蘭工業大学大学院 葛西芳枝
太田 鍊

地方都市では、管理不全による「空き家の増加」や「就職・進学をきっかけとした「人材流出」が課題となっている。そこで空き家や空き家になる可能性のある住宅「空き家ストック」の活用に向け、所有者の住宅に関する意向や使われなくなる要因を整理し、低未利用化のメカニズムを解明する。次に初期ターゲットとして低予算での居住や交流を求める人材を対象に、空き家をシェアハウスとして

マッチングサービス提案

本事業の優位性は空き家の放置期間を短縮し、早期のマッチングによって住宅の劣化を抑制できる点にある。最終的には、低未利用化メカニズムと教育プログラムを基盤にアプリケーションを開発し、自治体レベルでの空き家対策を目指す。



本審査会では藤井実行委員長はじめ実行委員、協賛企業関係者らもオブザーバーとして発表を見守った

第20回CVG北海道審査委員会 (敬称略)

- 〈委員長〉 小貫 秀治 (北海道発明協会専務理事)
- 〈委員〉 鈴木 馨 (産業技術総合研究所北海道センター所長)
- 日谷 知章 (エア・ウォーター北海道事業企画部長)
- 南 宗成 (日本政策金融公庫国民生活事業本部 北海道創業支援センター所長)
- 田北 剛 (北海道経済産業局産業部経営支援課長)
- 浦田 哲哉 (北海道経済部地域経済局中小企業課長)
- 橋場 参生 (北海道立総合研究機構産業技術環境研究 本部長兼工業試験場長)
- 里見 英樹 (メディア・マジック代表取締役)
- 廣瀬 岳史 (NoMaps実行委員会事務局長)

政策金融の担い手として、**安心と挑戦を支え、共に未来を創る。**

JFC 日本政策金融公庫 札幌支店

日本公庫は、民間金融機関の取り組みを補完し、事業に取組む方々等を支援する政策金融機関です。

国民生活事業 0570-000202
農村金融事業 011-281-1261
中小企業事業 011-281-5221

第20回 キャンパスベンチャーグランプリ

北海道を応援しています。

※順不同

北洋銀行

Growing with the region

株式会社北洋銀行

株式会社メディア・マジック

SUNAGO

株式会社砂子組

AWL株式会社

HNBC

Since 1987

一般社団法人北海道ニュービジネス協議会